

大穂学園だより

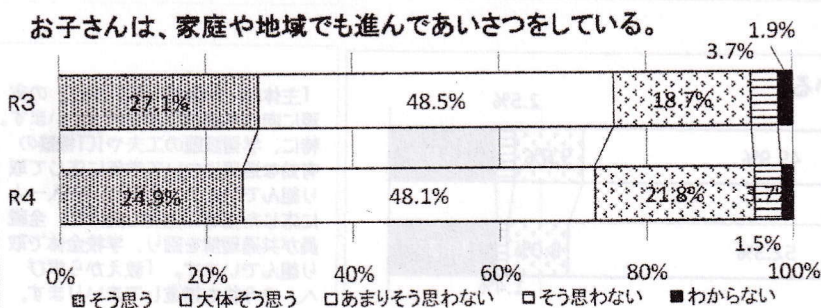
令和5年3月10日

～大穂学園学校評価の共通項目について～

「施設分離型小中一貫校」として、保護者や地域の皆様のご理解とご協力をいただきながら「小中一貫教育」を推進しています。大穂学園内各小中学校で実施した保護者の皆様による学校評価アンケートの中で、学園共通とした下記項目の結果についてまとめましたのでご覧ください。

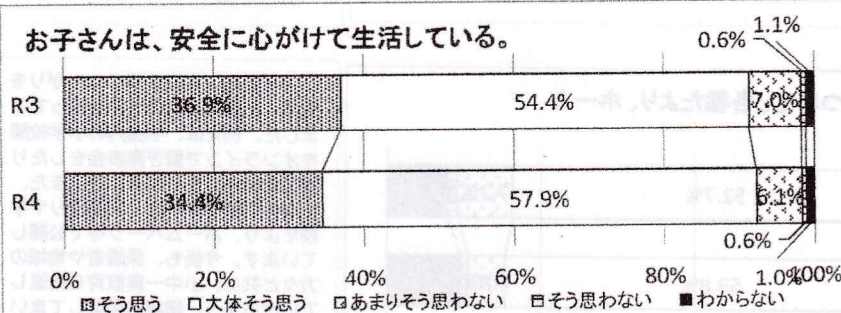
- ① お子さんは、家庭や地域でも進んであいさつをしている。
- ② お子さんは、安全に心がけて生活している。
- ③ お子さんは、進んで家庭学習(宿題も含む)を行っている。
- ④ 教師は、いじめを許さない心や社会のルールを守り、相手に優しく接する態度を育てる指導に努めている。
- ⑤ 教師は、子どもの安全を考えた指導を行っている。(登下校・防犯・防災等)
- ⑥ 教師は、分かりやすい授業をしている。
- ⑦ 学園は、小中一貫教育の取組について、各種便り、ホームページなどで伝えている。
- ⑧ 学園の小中学校は、児童生徒の教育のために連携している。

お子さんは、家庭や地域でも進んであいさつをしている。



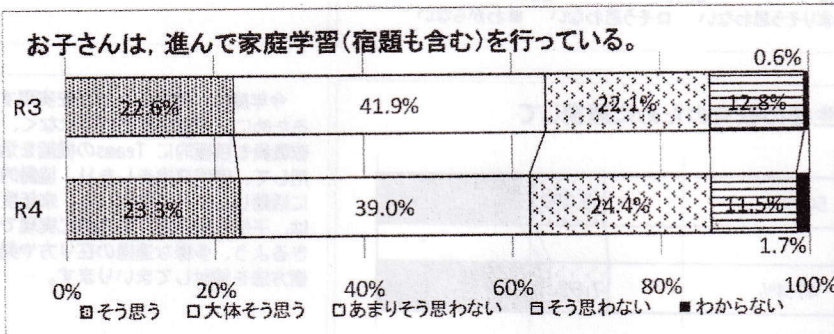
年々肯定的な回答が減少しています。コロナ感染症やマスクの着用によって、人や地域の方々とのコミュニケーションが減少していることも要因になっているのかもしれませんが、「一日のスタートは、気持ちの良いあいさつから！」を合言葉に、家庭や地域の方々と一緒に、実践していきたいと思えます。児童生徒へ、お声掛けをお願いいたします。

お子さんは、安全に心がけて生活している。



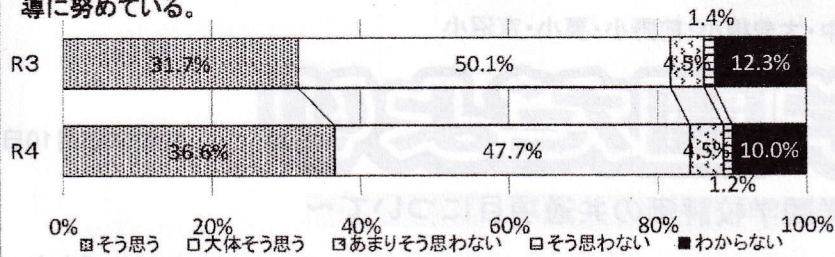
今年度も、安全に心がけて生活している児童生徒たちの割合は非常に多いです。最近是不審メールや脅迫文、下校時の声掛けなどの不審者情報も多く、学校におきましても、登下校の安全や不審者対応など、指導強化に努めています。また、家庭・地域の見守りに感謝しております。引き続きご学校・家庭・地域の連携し、児童生徒の安全を守っていききたいと思います。

お子さんは、進んで家庭学習(宿題も含む)を行っている。



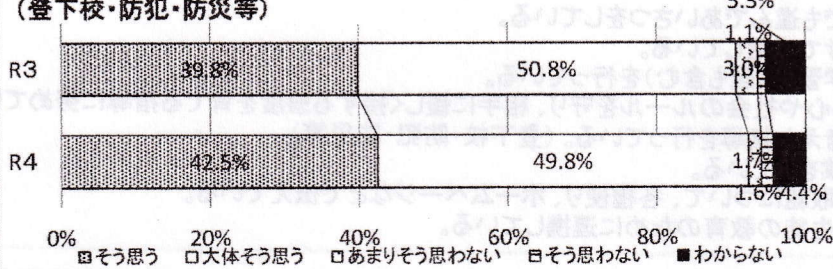
つくば市では、一人一台GIGA端末の活用により、家庭での学び方も多様になりました。また、児童生徒が、学校と家庭のシームレスな学びの実現に向けた取組を、各学校で進めています。つくば市の、「管理から自己決定」できる子供の姿を目指し、主体的に家庭学習が進められるよう、ご家庭と連携していきます。ご協力をお願いいたします。

学校は、命を大切にする心や社会のルールを守る態度を育てる指導に努めている。



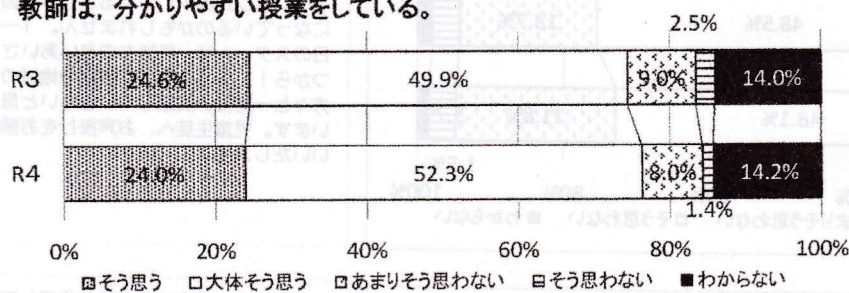
大穂学園では、道徳教育の充実を図り、いじめや命の大切さについて、対話を通して価値を深めてきました。アンケート結果からも、肯定的な回答が増え、成果に表れています。また、つくば市内全校で行った、「ルールメイキング」において、自分たちでルールを見直し、意見交換をしました。今後も、人を思いやる心の育成に努めてまいります。

学校は、子どもの安全を考えた指導を行っている。
(登下校・防犯・防災等)



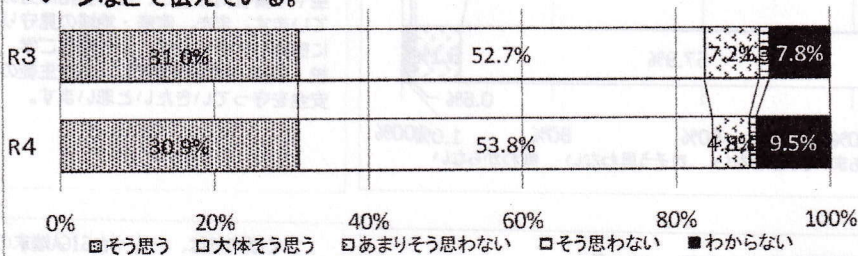
2年ぶりに、学園合同引き渡し訓練を行いました。各学校で、地域防災委員の方々にもご参加いただきました。また、自然災害や不審者侵入など様々な場面を想定した避難訓練も実施しました。今後も、児童生徒の安全だけでなく、地域と学校が連携協働できる組織を目指してまいります。今後ご協力をいただきますようお願いいたします。

教師は、分かりやすい授業をしている。



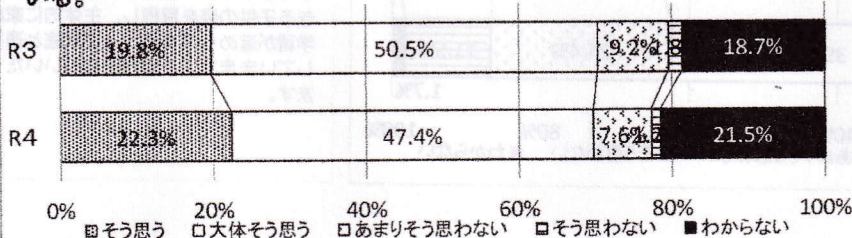
「主体的・対話的な深い学び」の実現に向けた授業改善を行っています。特に、学習課題の工夫やICT機器の有効な活用について学年に応じて取り組んでいます。さらに、一人一人に応じた指導の充実に向けて、全職員が共通理解を図り、学校全体で取り組んでいます。「教えから学びへ」を今後も推進してまいります。

学園は、小中一貫教育の取組について、各種たより、ホームページなどで伝えている。



今年度は、学園の横のつながりを意識した教育活動の充実を図ってきました。例えば、学園内の小学校間をオンラインで繋ぎ発表会をしたり、意見交換をしたりしました。また、学園の取組の様子は、学園便りや学校だより、ホームページ等で公開しています。今後も、保護者や地域の方々と共に、小中一貫教育を推進していけるよう、積極的発信してまいります。

大穂学園の小中学校は、児童・生徒の教育のために連携している。



今年度は、連続した学びを実現するために、児童生徒だけではなく、教職員も積極的に Teamsの機能を活用して、情報交換をしたり、協働的に活動したりしてきました。来年度は、子供の思いが、主体的に実現できるよう、多様な連携の在り方や発信方法を検討してまいります。